

貧しき北東アジアの国ゆえ？ 食べ方に似通った点あり

本年も農業経営者、全国大会が2月10日・11日の2日間開催された。全国からマトモな生産者のみならず、私の想像を超える変わり者の生産者達が集まり、日本農業ここにあり！を感じ取るようになった。

最初に謝罪しなくてはいけない。この大会を盛り上げていただいたスタッフや2日間すべての講師のお話を拝聴できなかった。実は開催前日に米国から帰ったばかりで、時差だけで睡魔との闘いであった。

航空業界の先輩として活躍されていて本誌の最後のページを飾る黒木安馬さんの話は面白かった。もしかして落潮のJALの話聞けるかと思っただけ、さすがに微妙に濃い話を避け、男子諸君の大好きなJALのスタッフは空だけではなく、地上でもいろいろ、**エロエロ活躍**されている話は食い入るように拝聴した。今回は黒木さんの知人で、徐迪旻さんという中国の方が同席された。お二人は今の中国は日本以上に躍動的に発展している話をされたが、まあ、この辺の話はメディアを通じて知らない人はいないだろう。ヒールな私は徐さんに「中国人はなぜ日本と同じヨーグルトを細いス

トロで飲むのですか？」と意地悪な質問をした。2年前、上海のオーストラリア資本のホテルでバフェ・スタイルの朝食を取っていたところ、正直おかしくて吹き出しそうなシーンに出くわした。ほとんどが中国人以外の宿泊客の中、多分新婚旅行の現地の男女のカップルが仲良く対面状態で、小さなカップに入っているものを細いストローを刺して、お互い口を細め、中学生のファースト・キスのように顔を真っ赤にして、真剣に吸っていた。興味が湧き、いったい何を吸っているのか私も試してみようと思ひ、同じ小さなカップを手に取り、やはり同じ細いストローで吸ってみた。しかし私の様な**百戦錬磨の舌使い**ができる大人のキスでもだめだった。真剣に吸えば吸うほどホホが痛くなった。

こうなると我慢にも限度があり、吸うのを諦めて、カップのシールをめくった。中には白いドロドロの液状の物が見えた。そこで、小さなスプーンですくって口の中に入れてみ

ひと 中国の女、高田馬場の女

Vol.27



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

たところ、この独特の苦さはまさしくヨーグルトだとすぐに理解できた。不思議だったのはストローで吸うヨーグルトの味とスプーンで食べる味が違うことだ。

で、先ほどのヒールの本髓の質問に徐さんはあっさりとしたように答えた。「それはまだ中国が貧しいからです」。そしてこうも説明していただいた。「このように苦勞

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

して吸って時間をかければ楽しみながら食することができるのです」。

素直で正直な人だと思った。ただこのような答え方は一つ間違えると国民性を疑わせる会話になるところを、へりくだることなく、そして如才なく発言される能力はさすがである。なぜこのような質問をしたのか、それは我々日本人にとって未知の国、中国ではあるが、徐さんが生まれ育ったご自分の国のことを「熱烈謝辞」するのに、その素晴らしい国の国民が貧乏臭くヨーグルトを食べるのか疑問に思ったからである。

では日本人はどうなのか？ 日本にも貧しい食べ（飲み）方が案外多くある。まずはラムネ、あのビー玉がビン容器の中間にあり、コーラの一気飲みのようにできないのが特徴だ。ゆっくり飲むことで時間をかけて楽しむことになるのだろう。

しゃぶしゃぶと焼肉。米国人が我が家に来た時の定番メニューだが「同じビーフでもこんな食べ方があるんだ」とよく言われる。さて、これは日本料理に対するほめ言葉かそれとも……。確かに肉の量に対してタレなどの調味料の方が多くなる食べ方は金髪・ブルーアイから見ると、食料自給率100%を超える炭水化物の王者、お米を口にかき込む道具にしか見えなくもない。

日本人は勝手に日本食が素晴らしいと思っているかもしれないが、世界と比較するとやはり和の国、日本にも貧しさの面影はどこかに残っていてもおかしくない。日本も戦後の貧しい時代を経験して飽食の時代を迎えたが、今の中国はよほどの国よりも進化が早く、食のゆとりや豊かさを超越して発展していくに違いない。しかし我々日本人は次の世代に**本当の豊かさ**と**貧しさの意味**を伝える義務があると思う。

東南アジア系の住民が多い 高田馬場に住むあの方は

そのオーストラリア資本のホテルには、おまけが付いていた。フロントのやや左前に新刊本の陳列があった。日本名『南京大虐殺』。最初英語の表題だったので気にしなかったが、よく考えてみると、大胆なことをやってくれる。このホテルの宿泊客の5%から10%が日本人のようだ。その辺のことを分かっているならば、かつ事実関係もはっきりしていないあの事件の本を日本人の前で販売する営業努力は大したものだ。それに引き換え日本人は大陸中国人が多く宿泊する池袋のメトロポリタンに数千万人が殺されたとする文化大革命の歴史書を陳列する勇氣はあるのか。もしくは日本人が大多数を占

めるホノルルのJAL系ホテルで1941年12月7日（8日ではない）、日本海軍の零式艦上戦闘機によりパールハーバー攻撃を美化する本を販売することができるだろうか。もちろんフロントにクレームを伝えたが先ほどの「オーストラリア資本ですから」でごまかされ、JTBにも書面で苦言を伝えたが、未だサンキュー・レターの返事は届いていない。

正しいかどうかの判断は別にして、あの餃子事件で中国人従業員を逮捕したことは面子を重んじる中国政府としては思い切ったことなだろう。しかしその翌月には日本では懲役刑で済むはずの、覚せい剤を日本に持ち帰ろうとした日本人を4名、薬物で極刑に処したバランス感覚。海外から中国に持ち込まれ、販売する時はコンピューターなどの設計を中国に強制的に開示させる。一番理解できないのは国民全員に参政権がないのにあの大きな国を統治できる能力。

本音を言います。今の大陸中国人と日本人は信頼関係を作れるのか？ ビジネスで中国と付き合うのであれば私には関係ない話だが、現実、日本に多くいる大陸ファンの頭の中には私の理解を超えたものであり、経済は改革開放、政治は共産主義なんてことをいう実社会でのバランス感覚

はどうか。そんなことを私が言ったところで釈迦に説法だろうが、これからはイヤでも付き合っていかなければならないのが現在の中国なのだろう。

そんなことを考えながら拝聴していた全国大会だったが、癒されることもあった。それは本誌編集長の奥様にやっとお会いできたことだ。ある編集部員は韓流ドラマに出てくる**悪役の下派手**なオバサマのようだと宣っていたが、いやいやどうしてお美しい容貌とのお噂はかねがね聞いていた。なので、実際お話をさせていただき、安らぎの時を過ごせたのが一番の収穫であった。実は奥様とは今回が初めての出会いはなく、約20年前に当時お勤めだったある組織に手紙を書いて相談したところ丁寧なお返事をいただいたことがあった。

あれから幾星霜、手紙にあったお名前さえも忘れた頃に本誌編集長からその組織のことを聞き、当時のことがフラッシュバックのように思い出されたのだ。奥様はその美貌ゆえに高田馬場を歩いていると官憲から「**在留許可書**を見せろ」と呼び止められることがあったそうだ。美しさとは罪つくりで、他人に誤解を与えるものだと感じさせた全国大会なのであった。